

平成26年度熊本障害者スポーツ指導者協議会 講演会（報告）

日 時：平成26年6月15日（日） 11：30～12：30
場 所：熊本機能病院南館研修室
共通演題：「私とスポーツ」



講師プロフィール

藤 嶋 大 輔
山 都 町 役 場
健康福祉課勤務

- ・ 2011 IWAS World Games
走り幅跳び、100m 銀メダル
- ・ 2013 IPC World Championship
走り幅跳び 8位



幼い頃に片下腿を切断するが、双子の弟と共にさまざまなスポーツをに親しんで育った。高校生の時に陸上で宮城身障国体へ出場し、パラリンピアンである山本行文氏と出会って以来、陸上選手として頑張ってきた。現在は仕事、家庭、子育て、それに加えて競技となるため、練習量の確保はなかなか難しいが、頑張っている。

義足については、日常用、競技用（短距離・跳躍）と用途により様々な種類があり、それぞれ高価であるため、周囲の理解や支援が必要と感じる。今後は、東京パラを目指すユース世代の支援を行っていきたい。



講師プロフィール
工 藤 恭 子
日本赤十字社熊本県支部
総務課勤務

- 2000 シドニーパラリンピック
銅メダル
- 2004 アテネパラリンピック 4位
- 2010 世界選手権 銀メダル

5歳の時に、左手を切断したが地域の中で皆に育てられた感じであった。小学校、中学校と進むにつれて出来ない事があるという壁にぶつかるも、負けず嫌いな性格もあり、バレーボールなどに挑戦を続けた。高校生の時に卓球と出会いスポーツの本当の楽しさを知ることができた。一時卓球から離れるが、社会人となり障がいを持った方の練習を初めてみて、レベルの高さと笑顔に刺激を受け、再び卓球を始めた。



今までスポーツを続けているのは、スポーツが自分らしくいられる場所であり、人生を豊かにしてくれると感じているから



である。現在、パラリンピックはポイント制で、国際大会に出てポイントを獲得しなければならない。そのために仲間が練習会を開催してくれたりして、「人の力」がとても大切であると感じている。これからは日本での世界選手権開催を目指し、国内選手の強化に努めたい。また、若い世代を育成できる様にサポート体制が整って行ってほしいと願っている。

当協議会としては、

今後アスリートに対して、できる範囲の協力を行える体制作りが必要と感じました。また、両名とも夢として若手の発掘及び育成を掲げていました。当協議会も熊本から2020年東京パラリンピック選手を輩出できるようにスポーツ教室等を開催し、若手の発掘及び育成を行っていければと感じました。

両名の皆様、お忙しい中にご講演頂き有難うございました。今後の活躍をお祈りしています。